

Japanese Society

Hip

2016 / 9

日本股関節学会ニュースレター 第2号

変形性股関節症診療ガイドライン について

(改訂版)

第42回学術集会を開催して
第43回学術集会のご案内
股関節鏡認定制度の発足に向けて
第2回教育研修セミナーのご案内

特別インタビュー **舞の海 秀平**
「大きな力士に勝つため、
股関節の柔軟性はとても重要でした」

股関節に関する基礎と臨床の研究を通じて
股関節学の進歩普及に貢献することを目的とする

Japanese Hip Society

日本股関節学会ニュースレター

2016/9
第2号

- 3 目次
- 5 理事長ご挨拶
- 7 第42回日本股関節学会学術集会を開催して
- 9 第43回日本股関節学会学術集会のご案内
- 11 特別インタビュー 舞の海 秀平 (元大相撲力士・大相撲解説者)
- 15 股関節鏡視下手術・技術認定制度の発足に向けて
- 17 変形性股関節症診療ガイドライン 改訂版
- 18 第26回大正富山Award 授賞者
- 21 第2回教育研修セミナーのご案内
- 22 平成29年度 海外研修制度と募集要項
- 24 役員一覧①・新理事よりご挨拶
- 26 役員一覧②
- 28 入会案内
- 30 編集後記

日本股関節学会ニュースレター（第2号） 理事長ご挨拶



日本股関節学会 理事長 久保 俊一

京都府立医科大学大学院 運動器機能再生外科学 教授・副学長

日頃から日本股関節学会の運営にあたり、ご協力をいただき感謝しております。この度ニュースレター第2号を発刊する運びとなりましたので一言ご挨拶申し上げます。昨年、ニュースレターを創刊いたしましたところ、学会員の先生方はもちろん学会員以外の先生からも大きな反響をいただきまして、改めて整形外科における股関節学の重要性を認識いたしました。その中で、Femoroacetabular Impingement (FAI) の診療指針は、ワーキンググループでエビデンスに基づき作成してもらった案を理事・評議員でまとめたものです。寛骨臼形成不全は手術対象とすべきでないことなどの注意点がたくさん盛り込まれています。秩序があると言いがたかったFAIの診療が整理されたと、多くの先生方からご評価いただきました。現在、学会のプロジェクト研究としてFAIの疫学調査を行っており、本邦での実態を明らかにしながら明確な診断基準を作成すべく努力しております。

研修制度に関しましては、各研修病院の実態調査を行い、研修の受け入れ可能状況の整備をしているほか、昨年からはじめました海外研修制度では、留学期間を4月から翌年の3月までの間としました。学会の会計時期とは別の期間を設定することで利便性を高めております。ぜひふるってご応募ください。

昨年より始めました股関節学会セミナーについては、本年は学会の前日に開催いたします。詳しくは本レターのご案内をご覧ください。股関節学は、整形外科の中で最も古い歴史を持ち、THA、骨切り術、股関節鏡など多彩な手術技術を習得する必要があります。また、手術を適切に行うためには、正しい診断技術と基礎科学を含めた幅広い知識が求められます。今回のセミナーでも基本から最先端までを効率よく学んでいただくため、バランスのとれた企画と優れた講師陣をご用意しております。股関節外科医を目指す若い先生方だけでなく、経験ある先生方にも是非ご参加いただければと思います。

近年、股関節鏡視下手術が大きな注目を集めています。この手術術式を、昨年、股関節学会が中心となり日整会を通して外保連に申請しました。幸い本年4月、関節鏡下股関節唇形成術 (K080-6) を保険収載することができました。ご協力いただきました先生方に心より御礼申し上げます。一方で、股関節鏡下手術について、股関節学会がその質を担保していかなければいけないという側面も生まれました。これに対しては学会技術認定制度の準備を進めて参りたいと考えております。また、本年度から股関節学会は外保連への加盟が認められました。社会保険委員会を充実させながら、学会主導で、点数評価が充分でない骨切り術への理解や骨盤・大腿骨の併用手術の点数改善などを提言してきます。

今後とも会員の皆様のご協力をよろしく申し上げます。

第42回日本股関節学会学術集会を開催して

日本股関節学会
ニュースレター

会長 菅野 伸彦

大阪大学大学院医学系研究科運動器医工学治療学 寄附講座教授

第42回日本股関節学会学術集会を平成27年10月30日(金)および31日(土)の2日間、グランフロント大阪にて大阪大学として初めて主催させていただきました。おかげ様で、一般演題は801題応募いただき、今までで最も多い1921名の参加登録をいただきました。会員の皆様をはじめご協力をいただいた方々に心より御礼申し上げます。

本大会のテーマは「股関節外科医のあるべき姿」とし、その専門性の必要性や、専門医としてどのような診療を行うべきかを探り、次世代の股関節外科医の育成についても討議いたしました。専門性には、1つ分野をより深く熟知しているという部分と、より広く分野を網羅的に熟知しているという部分の両者がともに重要です。今や股関節治療において最も多く施行されているは人工股関節全置換術ですが、そのみ熟知しているだけでは、「股関節外科医のあるべき姿」とは言い難く、股関節外科学の進歩は望めないかもしれません。そこで、成人股関節疾患のみならず小児股関節疾患や外傷も含め、また、保存的治療、関節鏡手術、骨切り術やその他の関節温存治療などの治療学、更に股関節障害が運動器全体へ及ぼす影響、心身の健康や生活の質への影響など、基礎から臨床にいたるまで、幅広く包括できるプログラムにいたしました。

特別講演として吉川秀樹教授に「股関節周囲腫瘍の診断と治療」と題して、部位別腫瘍診断の重要性を講演いただきました。会長講演では「大阪大学で培われてきた股関節外科学」と題して、大阪大学股関節クリニックの歴史を紹介するいい機会となりました。全員懇親会で医師部門の最優秀ポスター賞を贈呈し、リハビリ部門と看護部門のそれぞれ最優秀演題賞を新設いたしました。審査いただいた先生方に御礼申し上げます。また、全員懇親会でナイトシンポジウムを新規格し、皆さんを唸らせる歌声を披露いただいた先生や名コメントをいただいた審査の先生方にも御礼申し上げます。

プログラム企画や特別講演、教育講演も好評で、リハビリ部門と看護部門も充実したものとなり、無事盛況に大会を終了できました。ありがとうございました。

優秀ポスター賞

最優秀ポスター賞 (医師部門) ◆

渡邊 裕規 「THA 術後 MRI における短外旋筋群の筋萎縮評価 -アプローチ毎の比較-」 (はちや整形外科病院)

最優秀演題賞 (リハビリ部門) ◆

中北 智士 「THA 術後の精神的健康には歩行距離に対する期待達成度が影響する」 (あんしん病院)

最優秀演題賞 (看護部門) ◆

前野 枝里子 人工股関節全置換術後の苦痛の軽減～自己調整硬膜外鎮痛法 (PCEA) を導入して (我汝会えにわ病院)



開催告知

第43回日本股関節学会学術集会

日本股関節学会
ニュースレター

今年(2016年)11月4～5日に開催する第43回日本股関節学会学術集会の概要です。

会長 飯田 寛和

関西医科大学 整形外科学教室

第43回日本股関節学会を主催させて頂くこと大変光栄に存じております。会期は2016年11月4～5日、大阪国際会議場にて開催させて頂きます。本学会は1974年に第1回股関節研究会として発足し、1986年第13回から名称を新たに日本股関節学会学術集会として開催されております。即ち、今回は学会となってからちょうど30年経過したことになります。

全くの偶然ですが、誰もがご存知の映画「Back to the Future」が公開されたのが1985年であり、その中で30年後の2015年の未来が描かれています。映画の中では車やスケートボードが空を飛んでいます、今の現実はそうではありません。一方未来を知って災難を未然に防ぐといった描写もなされています。いささかこじつけですが、今回のテーマを「Back to the Future」とさせて頂きました。即ちその心は、股関節疾患の治療は長期にわたる経過に基づいて反省と発展を遂げるものであり、今から10年、20年、30年前に考えたことを今の時点から振り返って頂き、その時に欠けていたものは何か、もし未来を知っていれば、その時どのような選択をしたか。大きく変わったのか、何も変わらないのか、今何が大切で未来に向けての提言は何か、といったテーマで、特別企画として股関節外科医として長年の経験を有する先生方に「**年前の私と今」というタイトルで上記趣旨に沿ってお話し頂く予定です。

現在の股関節治療において、特に手術領域では人工股関節が圧倒的に多く施行されています。しかし私見では人工股関節は既に十分成功した医療として成熟しており現在の論点は極めて細部、即ち重箱の角をつつく議論に偏移していると考えています。幸い日本股関節学会は、伝統的に人工関節以外の課題に重点を置き小児から成人までの問題を論議して参りました。今回の学会はこの原点に立ち戻り、かつ現時点での股関節を取り巻く未解決の課題について論議して頂くべく、看護・リハビリ部門を含め12のシンポ・パネルを企画致しました。いずれも股関節治療において課題となっているトピックスであり、充実した議論と成果を期待致します。



2016年11月4日(金)～5日(土)

テーマ:「Back to the Future」

会場:大阪国際会議場

ニューズレター第2号のインタビューは、大相撲解説者の舞の海秀平さん。小柄ながらも技能賞を5回も受賞し、「技のデパート」と呼ばれて人々を魅了した現役時代を支えてくれたのが、実は股関節だったそうです。

大きな力士に勝つため、 股関節の柔軟性はとても重要でした

舞の海 秀平 (元大相撲力士・大相撲解説者)



股関節の可動域が
広がると、
相撲の「攻め・守り」、
どちらも強くなります

Q 股関節は相撲を取る上で
重要なパーツですか？

股関節が柔らかければ、可動域が大きくなり、前後左右、だけでなく上下にも、体を自由自在に動かせるので有利です。また、ケガをしないようにするためにも、不意に不自然な体勢になっても大丈夫な股関節の柔軟性が必要です。股関節の可動性が広くなると、守備範囲も、攻撃範囲も大きくなり、相撲の可能性が広がります。

Q 小柄な体格で大きな力士に
勝つためには、股関節の柔軟性が
重要だったのですね！

大きな力士と同じように、立ち合いでガツンと真面にぶつかったら、僕なんかあつという間に、土俵の外に吹っ飛ばされてしまいますから、なんとか勝つ方法はないかと悩み、「土俵は平面だと限界があるが、上に飛ばせば、無限に可能性が広がる!」と気づき、股関節の柔軟性と足腰を鍛えて、ジャンプしたり、土俵際まで攻められても、回り込んで粘ったりして、自分らしい相撲を探求しました。



股関節

腸腰筋

内転筋群

恥骨筋

深層
外旋六筋

「引退後15年以上経ったから、自分が理想とする形ができないんですよ…」と言いながら、腰割りを見せてくれた舞の海さん。「股関節まわりにあるいるな筋肉を、まんべんなくトレーニングすると、技の切れが良くなり、ケガの予防にもなります」とのこと。腹直筋、腸腰筋、腰方形筋、内転筋、大臀筋、中臀筋、大腿直筋、ハムストリングスなど、上半身と下半身を支える大小の筋肉が多数集まる骨盤、股関節は、力士にとって、最強化ポイント。だから、毎日の稽古でも、相撲を取る前でも、蹲踞(そんぎょ)の姿勢を取り、四股(しこ)を踏んで、股関節を柔軟にしておくのでしよう。

恥ずかしながら、体全体がすごく固いのです。小学生から相撲を始め、一番イヤで苦手だったのが「股割り」、つまり「開脚ストレッチ」でした。いつまでも開脚ができないと、先輩やコーチに後ろからグイグイ押されて、辛かったし、逃げていました。でも高学年になると、逃げてもらえないので、毎日ストレッチをしていくうちに、中学生のときには、顔が付くようになりました。するとさらに欲が出て、もっと柔らかくならうとがんばって、両肩も付くようになりました。

Q 力士は股関節が柔軟で、股割り、開脚も簡単にできるイメージがありましたか…

大きな力士は、お腹が出ているので、開脚してもお腹が地面に付きやす

Q その努力で、「平成の牛若丸」と呼ばれるきっかけになった「八艘跳び」や「猫だまし」など、立ち合いの躍動感ある技や、「切り返し」、「内無双」などの絶妙な掛け技を次々と繰り出し、「技のデパート」と呼ばれ、大人気になったきっかけなのですね。

はっそう
「八艘跳び」も「猫だまし」も、自分の体を宙に浮かせて、思いも寄らない位置に移動することで、相手の体のバランスを崩し、隙を作るのが目的なの

で、いかに高くジャンプして、いかに速くに空間移動できるかが大切なので、股関節が自由自在に動かないとできない技です。

実は股関節が固く、股割りやストレッチが苦手でした…

Q ということは、舞の海さんは小さい頃から股関節が柔らかかったのでしょうか？

Shuhei Mainoumi

元大相撲力士・大相撲解説者

1968年青森県生まれ。日本大学経済学部卒業。小学生時代から相撲を始め、日大相撲部で活躍後、1990年5月に羽海部屋に入門し、5月の夏場所で初土俵。1999年11月の九州場所で引退。最高位は小结で、技能賞を5回受賞。力士時代の体格は171cm、101kgで得意技は下手投げ、内無双、切り返し。現在は、NHK大相撲解説者のほか、「ぶらり途中下車の旅」をはじめとする人気テレビ・ラジオ番組でも活躍中。



いので、有利なんですよ(笑)。僕はそれほどお腹が出ていなかったんで、自分で腰やお尻から前に倒すように意識しました。相撲の開脚の練習は、補助者がまわしを後ろからグイッと引き上げながら、腰とお尻から前に倒すようにサポートします。この方法はすごく良かったと思いますね。

勝つためにどうすれば…の試行錯誤が、「技のデパート」になる原点でした

Q 先日もテレビで、相撲技の82手を見事に回答されていましたが、現役時代も珍しい相撲技を決めようとして稽古を積んだのですか？

実はそうではなくて、「どうすればこ

の体で勝てるか?」と考えて、自分自身で稽古を繰り返していくうちに、「ああこれだ!」と思う相撲の形になり、調べると、それがちゃんと82手の中にあって、自分でもビックリすることがほとんどでした。

力士時代は「毎日が交通事故」痛みと不安、ケガとの闘いでした

Q でもやはり、ケガに泣かされることも多かったですね。大きな力士との対戦は、やはり体の負担が大きいですか？

うーん、正直言って、毎日交通事故に遭っているような感覚でした(笑)。相撲を取りながら、骨がきしむ音がしたり、関節がずれたり、潰れたりする感覚、じん帯が切れそうなギリギリの

衝撃など…力士時代は、数え切れない痛みや恐怖と闘っていました。

Q 1996年に、「左膝内側側副靭帯損傷」という大けがをされましたが、回復には時間がかかりましたね。

あのときには、整形外科の先生にお世話になりました。手術をするか、手術はせずにリハビリで復帰を目指すか、2つに1つの選択をするために、セカンドオピニオンを聞いて、悩みに悩みました。自分の体だから、最後は自分で決めなければいけないけれど、十分な医学知識も過去の事例も知らないで、本当に困りました。でもぐずぐずしていると損傷した靭帯は、元に戻らなくなってしま…最終的に手術はせず、リハビリ治療に決めました。



今の状況、 これからの回復予測を 知れば、 リハビリが苦痛に ならないかも…

Q リハビリは 順調に進みましたか？

辛かったです。僕の場合は、普通の生活ができるようになるリハビリではなく、相撲が取れるようになるためのリハビリでしたから、それは、それは辛かったです…。特に痛みに耐えながら筋トレする訳ですが、「無理をするとまた悪くなるのではないか?」という不安が常に頭から離れず、ケガをしていない右足と同じように、筋肉の奥の奥から溢れ出るようなパワーを出せなくなってしまいました。

Q 靭帯の回復状況や、 筋肉の量などのリハビリ中の体の データや、痛みに関する相談を 細かくできれば良かったですね。

ある程度は相談できましたが、プロスポーツ選手にとって、リハビリの期間

と量で、どのくらい回復していくのか、いつ復帰できるのかが、とても気になる問題です。過去に自分と似たようなケガをした人のリハビリによる回復状況などを、簡単にでも事例として説明してもらったりすると、安心できるのではないかと思います。

Q 整形外科医をはじめ、 股関節に関する臨床・研究をする 先生方へ、メッセージを お願いします。

診察だけでなく、健康全般の相談に乗ってくれる親切な先生が多く、とても感謝しています。僕は相撲を取る間、ずっと痛みとの闘いだったので、股関節をはじめとする体の痛みを、医師にうまく伝えて、早く痛みを取ってもらえる方法を考えていただけるとうれしいですね。

大きな力士を倒し、 拍手喝采を浴びた 現役時代が 一番幸福でした！

Q 今でも股関節は 柔らかいですか？健康法は？

いいえ、すっかり固くなりました。古傷が全身にあるので、ストレッチや筋トレを少しやっても、痛みが出るので、あまり運動もしていませんね。毎日20分間のウォーキングと、月に一度程度のゴルフくらいかな。本当は、痛みのない健康な体を取り戻して、スポーツを楽しみたいです。体を動かさないので、今は食事に注意して、野菜から最初に食べたり、好きなラーメンはスープを半分残して、週に1回にするなど(笑)。

Q 大相撲解説者として わかりやすい解説が人気ですね！

ありがとうございます。小柄で悩んだことが、解説に活かしているのでしょうか。でもやはり解説よりも、相撲を取りたいですね！ケガの不安や、ぶつかり合いの恐怖や痛みがあっても、大きな力士を倒して、土俵の上で拍手喝采を浴びた現役時代に、戻れるなら戻りたいです。夢中で相撲を取っていた現役時代が、一番輝いて充実していました。根っからの相撲好きですね(笑)。

股関節鏡視下手術・技術認定制度の 発足に向けて

日本股関節学会
ニュースレター

杉山 肇 (股関節鏡視下手術・技術認定制度ワーキンググループ)

股関節鏡手術は、膝関節と同じく1900年代前半に本邦の高木により報告されています。しかし、その後、膝関節鏡が鏡視下手術として大きく発展したのに比べ、21世紀になるまで一部の施設を除いてほとんど行われてきませんでした。その理由は、股関節が多くの筋肉に囲まれた球関節で関節鏡の挿入が難しかったほか、今ではあたりまえとなった水中で使用可能な電気凝固メスがなく、出血対策が難しかったことがあります。

21世紀に入りこれらの問題が解決されると同時に、大腿骨寛骨臼インピンジメント (Femoroacetabular impingement、以下FAI) の病態が提唱され瞬間に股関節鏡手術が注目され、欧米を中心にその手術件数は10年間で100倍にも増加したと言われています。本邦においてもFAIを中心に欧米ほどではないものの鏡視下手術の手術件数は増加しています。しかし、寛骨臼形成不全症や股関節不安定性を有する症例が多い本邦において、FAIが中心の欧米の手術適応や手術術式をあてはめることは好ましくなく、日本人特有の股関節骨形態やその特徴を十分理解した上で治療にあたる必要があります。昨年、日本股関節学会では欧米に先駆け本邦におけるFAIの診断指針を提唱し、FAIに関する共通認識を広める努力を行っています。すなわち、股関節鏡視下手術は高いレベルで関節鏡技術を有することはもちろんのこと、日本人特有の股関節の機能解剖や、現在までエビデンスを積み重ねてきた股関節治療の歴史を十分理解した上で手術適応を選択することが必要となるわけです。昨年の1月に厚生労働省から股関節唇断裂手術に対する準用の疑義が外保連を通して指摘されましたが、これはまさにその点を踏まえた警告だと考えられます。股関節学会とし

ては、早急に対応して昨年3月には日整会をとおして手術術式を外保連に申請し、幸い本年4月には、関節鏡下股関節唇形成術(K080-6)を保険収載することができました。ただ、理事長が巻頭でのべている通り“一方で、股関節鏡下手術について、股関節学会がその質を担保していかなければいけない”という側面も生まれました。

このような経緯から股関節学会としても、日本内視鏡学会における認定制度に準じて、その治療に携わる医師の技術を高い基準で評価する制度の必要性があると考えています。この認定制度はその治療技術の発展に寄与するだけでなく、より高いレベルで治療にあたることで不適切な治療により起こる医療事故を未然に防ぐことが期待されています。現在、整形外科分野では、日整会が脊椎内視鏡下手術に対して技術認定医を認定しているほか膝関節鏡視下手術・技術認定制度を日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会(JOSKAS)が開始しています。本学会では、股関節に関する深い知識を持ち合わせた医師が、十分な技術をもって股関節鏡視下手術を施行することがより良い股関節外科の進歩につながると考え、股関節鏡手術認定制度の整備を準備することといたしました。昨年からはじめました股関節学会セミナーなどを通して、技術習得だけでなく、手術に関わる股関節の知識を十分に深めることを目的として認定制度の準備に当たって予定です。このことに関しては、以前からいろいろな議論があったかと存じますが、股関節学会の研修システムの一つとして技術認定制度の準備を進めて参りたいと考えておりますので会員の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

変形性股関節症診療ガイドライン 改訂版

日本股関節学会
ニュースレター

中島 康晴

変形性股関節症診療ガイドライン策定委員会

2016年5月に変形性股関節症診療ガイドライン改訂版が出版されました。初版の出版が2008年ですので、8年ぶりの改訂です。

初版では変形性股関節症（股関節症）を疫学、病態、診断、保存的治療、関節温存術、人工股関節置換術の6つの章に分け、51題のclinical question（CQ）に対して推奨文と解説を加えました。股関節症のQ&Aとして読者の期待に応えてきたと思います。しかしながら日進月歩の医学において、ガイドラインの寿命は通常5年とも言われています。確かに股関節領域においても多くの新しい話題が注目されるようになりました。その例として、大腿骨寛骨臼インピンジメント（femoroacetabular impingement: FAI）やmetal on metal THAの問題を挙げることができます。FAIの概念は、これまで一次性変形性股関節症と呼んでいた病態の一部を明らかにしましたし、金属イオンの深刻な問題は私たちに新しい機種が持つ危険性を自覚させました。

一方、診療ガイドライン自身の方向性も大きな変化を遂げています。初版発刊当時はRCTやcase seriesなどの研究デザインそのものを論文のエビデンスレベルとするのが通常でしたが、最近ではさらにsystematic reviewを行い、それらを統合してエビデンスレベルを決める手法が取られるようになりました。本ガイドラインにおいても、エビデンスを定性的または定量的にメタ解析することを基本としています。また「益と害」の概念も重要視されています。すなわち、治療の効果（益）のみを記述するのではなく、合併症の発生などもバランスよく記載することが重要視されています。さらにはエビデンスの質ばかりでなく、患者の好みや希望も考慮して、ある状況下で医師と患者の治療選択をより具体的にサポートできるガイドラインを目指しています。

今回の改訂にあたり初版のCQは抜本的に見直しました。新しい話題をできるだけ取り入れて、実臨床に即したCQに統廃合・整理した結果、計59題のCQとなりました。上記FAIを疾患として捉えるべきか、病態として考えるべきかは議論の分かれるところですが、改訂版ではFAIを1つの「章」として独立させ、その病態・診断・治療について概説しています。今後の議論の土台になれば幸いです。

最後に本ガイドライン改訂にご尽力いただきました策定委員の皆様へ深謝を申し上げます。



第26回大正富山 Award 授賞者

日本股関節学会
ニュースレター

第42回日本股関節学会総会において表彰式が執り行われました。

最優秀賞

藤井 政徳 (独立行政法人地域医療機能推進機構九州病院 整形外科)

論文名：発育性股関節形成不全に関連する骨盤形態異常：矢状面における検討

1. 受賞した研究活動について教えてください。

これまで発育性股関節形成不全に関連する骨盤形態異常について研究してまいりましたが、今回は矢状面における検討を行いました。

2. 受賞後の感想をお聞かせください。

名誉ある賞をいただき心より光栄に存じます。研究をご指導いただいた中島康晴先生、原俊彦先生、中村哲郎先生に深謝いたします。

3. 周囲の皆様の喜びの声、反応などについて教えてください。

たくさんの先生にお祝いの言葉をいただきました。

4. 受賞をきっかけにご自身に何か変化がありましたか？

一般病院で臨床のかたわら地道に行ってきた研究ですが、今回このようなご評価をいただき、今後の研究・臨床活動に向けて、大きな励みとなりました。今回の栄誉を糧として、より有意義な研究結果を報告できるよう努力する決意を新たにいたしました。

5. 今後の展望についてお聞かせください

本研究は preliminary な段階であり、股関節形成不全の骨形態については未だ不明な点も多いと考えています。この受賞を励みに引き続き研究に尽力してまいります。



藤田 健司 (金沢大学附属病院 整形外科)

論文名：新しいModified Trendelenburg テストの有用性

1. 受賞した研究活動について教えてください。

研究テーマは「新しいModified Trendelenburg テストの有用性」です。私がこの研究をはじめるときは、検者によってトレンデレンベルグテストの結果が異なることに気付いたことです。なぜ異なるのか、どうすれば再現性が上がるのかを考えていました。トレンデレンベルグテストを詳細分析するために、健康人を対象に基礎実験を行い、その結果をもとにトレンデレンベルグテストの変法を新しく考案しました。



そして、この変法を股関節疾患術後の患者さんに施行し、その有用性を評価しました。こうして、トレンデレンベルグテストのことばかり考えておりましたので、この期間トレンデレンベルグテストについて考えた時間は世界一ではないかと自負しています。

2. 受賞後の感想をお聞かせください。

本賞は高嶺の花のような存在と思っておりましたので、大変嬉しく、光栄です。学会発表時には、たくさんの人に研究結果を伝えたいと思っていましたが、小さな会場での発表であり残念に思っておりましたので、受賞はとても驚きました。

3. 周囲の皆様の喜びの声、反応などについて教えてください。

上司・同僚、および同門の先生方からお祝いの言葉を数多くいただきました。また、大きな盾をみて家族も喜んでくれました。これまで多くの知識や助言をくださった上司や私を支えてくださった皆様に心から感謝いたします。

**4. 受賞をきっかけにご自身に何か変化がありましたか？
今後の展望についてお聞かせください。**

日常診療の中での小さな疑問を深く追及していく姿勢で診療・研究に臨み、自分が面白いと思えるオリジナリティーのある発表をしていきたいと思えます。本賞の名に恥じぬよう、社会に貢献できるよう、今後も引き続き頑張っていきたいと思えます。

第2回日本股関節学会 教育研修セミナーご案内

日本股関節学会
ニュースレター

股関節の専門医を目指す若い医師の育成を目的に教育研修セミナーを企画することといたしました。股関節の外傷や疾患は、小児から高齢者に至るまで幅広く、また、様々な全身疾患や障害とも関係しております。股関節の専門医として適切に診断と治療を行うためには、股関節に関する基礎科学から手術まで幅広い知識が求められます。

本セミナーを通して、多くの若い医師が、これらの専門的な知識を習得して、これからの股関節学会を担ってもらうことを期待しております。

日 時：平成 28 年 11 月 3 日（木曜日・文化の日） 9：45～15：15

会 場：大阪国際会議場 10 階「1003」室
(〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島 5-3-51)

参加費：10,000 円

参加数：200 名

単 位：日本整形外科学会教育研修単位 各セッション 1 単位、受講単位は 1 日 4 単位まで取得可能
運動器リハビリテーション単位 3 単位、スポーツ単位 1 単位



申込方法：第 43 回日本股関節学会学術集会「教育研修セミナー」ページより参加登録してください。
<http://www.congre.co.jp/43hip2016/information/index.html>

プログラム

9:45～9:50 開会挨拶 久保 俊一理事長

9:50～10:50 I 小児股関節：モデレーター 三谷 茂（川崎医科大学）

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1) 発育性股関節形成不全 (DDH) | 三谷 茂 (川崎医科大学) |
| 2) 大腿骨頭すべり症 | 西須 孝 (千葉県こども病院) |

10:50～11:50 II 基礎/外傷：モデレーター 中村 琢哉（富山県立中央病院）

- | | |
|--------------|------------------|
| 1) 基礎：股関節の解剖 | 神野 哲也 (東京医科歯科大学) |
| 2) 外傷：寛骨臼骨折 | 澤口 毅 (富山市民病院) |

11:50～12:00 休憩

12:00～13:00 III 股関節鏡：モデレーター 杉山 肇（神奈川リハビリセンター病院）

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1) 適応と基本手技 1 | 加谷 光規 (札幌羊ヶ丘病院) |
| 2) 適応と基本手技 2 | 山崎 琢磨 (広島大学) |

13:00～13:10 休憩

13:10～14:10 IV 骨切り術：モデレーター 大川 孝浩（久留米大学医療センター）

- | | |
|----------------------|--------------|
| 1) 変形性股関節症に対する外反骨切り術 | 高平 尚伸 (北里大学) |
| 2) 大腿骨頭壊死症に対する骨切り術 | 山本 卓明 (福岡大学) |

14:10～15:10 V 人工股関節 モデレーター 中島 康晴（九州大学）

- | | |
|----------------------------|------------------------|
| 1) セメント THA の機種の変遷と技術の進歩 | 岩瀬 敏樹 (浜松医療センター) |
| 2) セメントレス THA の機種の変遷と技術の進歩 | 西井 孝 (大阪府立急性期総合医療センター) |

15:10～15:15 閉会挨拶

日本股関節学会平成29年度 海外研修制度と募集要項

日本股関節学会
ニュースレター

(募集要項)

1) 募集人員 2名

2) 研修条件

1. 平成30年4月～平成31年3月までの間で滞在期間は3か月未満を原則とする。
2. 海外での滞在施設は、希望する研修分野に応じて学会が最も適当と思われる施設を推薦する。ただし応募者が特定施設を希望するときは申し出ることができる。
3. 費用について
 - a. 渡航費用の一部を本学会が援助する。
 - b. 海外滞在中の滞在費、食費及び移動の費用は原則として応募者の負担とする。
4. 帰国後、英語と日本語での報告書の提出ならびに学術集会での帰朝報告を行なう。

3) 応募条件

1. 応募者は日本股関節学会会員であること。
2. 応募者は日本整形外科学会専門医であること。
3. 原則として40歳を応募時年齢の上限とする。
4. 勤務している病院または施設の責任者の承諾のあるもの。
5. 国際学会での発表の経験があり、滞在施設において発表できる研究成果を有するもの。

4) 応募に必要な書類

1. 日本股関節学会海外研修申請書 (Word版・PDF版)
 2. 履歴書 (大学卒業以降とする)
 3. 応募の動機や抱負について小論文
 4. 日本股関節学会評議員の推薦状と勤務している大学、病院の施設責任者、勤務先責任者の推薦状 (推薦者は身元保証人に準ずる者と考えること)。
 5. 業績目録
 6. 海外研修承諾書
 - a. 大学勤務……………教授の承諾書
 - b. 病院または施設勤務……………勤務している病院または施設の責任者の承諾書
- 以上、1 (申請書) 以外の書式は自由であるが、すべてA4サイズに統一し、上記の順にならべて左上を綴じること。また、コピー14部を同封すること。

5) 選考方法

1. 審査は書類選考とする。書類審査の結果は個別に連絡する。
2. 必要に応じて面接を行う予定である。
3. 合格者は後日改めて英文の履歴書等、海外施設での研修に必要な書類が求められる。

6) 申請締め切り **平成28年10月31日必着**

7) 申し込み先

日本股関節学会事務局
〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル9F (株) 毎日学術フォーラム内
Tel.03-6267-4550 Fax.03-6267-4555 E-mail.jhs@mynavi.jp

日本股関節学会役員一覧①

日本股関節学会役員をご紹介します。

日本股関節学会
ニュースレター

理事長

久保 俊一 京都府立医科大学大学院運動器機能再生外科学 教授

理事

遠藤 直人 新潟大学医学部整形外科 教授

川手 健次 奈良県立医科大学整形外科 教授

菅野 伸彦 大阪大学大学院運動器医工学治療学寄附講座 教授

杉山 肇 神奈川県リハビリテーション病院 病院長

須藤 啓広 三重大学医学部整形外科学教室 教授

高木 理彰 山形大学医学部整形外科学講座 教授

帖佐 悦男 宮崎大学医学部整形外科 教授

安永 裕司 広島県立障害者リハビリテーションセンター 所長

山田 治基 藤田保健衛生大学整形外科 教授

山本 謙吾 東京医科大学整形外科 教授

監事

小宮 節郎 鹿児島大学医学部整形外科 教授

松本 忠美 金沢医科大学病院・整形外科 病院長・教授

新理事よりご挨拶

新たに就任した理事から会員の皆様へのメッセージです。

高木 理彰

山形大学医学部 整形外科学講座 教授

専門分野：バイオトライボロジー 骨関節病理学

このたび伝統ある学会の理事を拝命致しました。現在、大勢の皆様にお力添え頂きながら、教育研修会の立ち上げ、プログラムの立案、研修会関連の企画・運営を中心に仕事をさせて頂いています。微力ではございますが皆様とともに学会をより一層盛り立て、若手の育成はじめ、股関節学を通して運動器学、医学医療に貢献したく存じます。引き続きご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

日本股関節学会役員一覧②

日本股関節学会役員をご紹介します。

日本股関節学会
ニュースレター

名誉会員

赤松 功也	井上 明生	高岡 邦夫	浜田 良機	宮岡 英世
東 博彦	井村 慎一	田中 清介	稗田 寛	
石井 良章	岩田 久	鳥巢 岳彦	船山 完一	
伊丹 康人	進藤 裕幸	内藤 正俊	松永 隆信	
糸満 盛憲	祖父江 牟婁人	中川 正	松野 丈夫	

評議員

青田 恵郎	大橋 弘嗣	三枝 康宏	中村 宣雄	松本 忠美
赤木 将男	大湾 一郎	坂井 孝司	中村 正則	馬庭 壯吉
秋山 治彦	岡野 邦彦	澤口 毅	中村 吉秀	馬渡 正明
阿部 功	岡野 徹	穴戸 孝明	名越 智	水田 博志
飯田 哲	尾崎 敏文	神宮司 誠也	西井 孝	三谷 茂
伊賀 敏朗	尾崎 誠	神野 哲也	西田 圭一郎	三ツ木 直人
池内 昌彦	織田 弘美	菅野 伸彦	西山 隆之	湊 泉
石井 政次	加来 信広	杉山 肇	野沢 雅彦	宮川 俊平
石堂 康弘	柁原 俊久	須藤 啓広	長谷川 正裕	宮西 圭太
石橋 恭之	片山 直行	瀬川 裕子	長谷川 幸治	宗本 充
泉田 良一	金治 有彦	高木 理彰	蜂谷 裕道	森 諭史
伊藤 浩	兼氏 歩	高岸 憲二	原 俊彦	森田 定雄
伊藤 芳毅	金子 和夫	高取 吉雄	原田 義忠	森田 充浩
稲葉 裕	加畑 多文	高平 尚伸	兵頭 晃	森田 裕司
今井 晋二	苅田 達郎	田口 敏彦	平川 和男	安永 裕司
岩崎 倫政	川手 健次	武石 浩之	廣瀬 士朗	柳本 繁
岩瀬 敏樹	川那辺 圭一	田中 栄	福田 寛二	山崎 琢磨
上島 圭一郎	河村 春生	田中 千晶	藤井 玄二	山田 晋
内田 宗志	北川 由佳	種市 洋	藤井 英紀	山田 治基
内山 勝文	金 潤澤	玉井 健介	藤岡 幹浩	山本 謙吾
江川 洋史	久保 俊一	帖佐 悦男	藤田 裕	山本 卓明
遠藤 直人	小久保 安朗	土屋 弘行	星野 裕信	山本 哲司
大川 孝浩	後藤 昌子	津村 弘	堀内 忠一	湯朝 信博
扇谷 浩文	小林 千益	土井田 稔	前田 ゆき	吉田 宗人
大園 健二	小林 直実	徳永 邦彦	間島 直彦	和田 郁雄
大谷 卓也	小宮 節郎	中島 康晴	松下 功	
大塚 哲也	斎藤 修	中村 茂	松田 秀一	
大塚 博巳	西良 浩一	中村 琢哉	松原 正明	

日本股関節学会の会員資格と会費

■会員の資格

- 正会員： 医師
- 準会員： 医師以外理学療法士 作業療法士 診療放射線技師 看護師など
- 賛助会員： 本学会の事業を援助する個人・団体
- 臨時会員： 医師以外（学術集会におけるリハビリテーション・看護部門の発表者および Hip Joint Suppl. における論文共著者）

■会費

- 正会員： 医師 10,000 円
- 準会員： 医師以外 5,000 円
- 賛助会員： 本学会の事業を援助する個人・団体 50,000 円
- 臨時会員： 医師以外（学術集会におけるリハビリテーション・看護部門の発表者および Hip Joint Suppl. における論文共著者）入会当該年度
のみの登録 5,000 円

入会手続き

ご入会を希望される方は、以下より申込書をダウンロードし、所要箇所をご記入の上、FAX もしくは郵送にてお申し込みください。なお、ダウンロードできない場合には、郵送いたしますので、申込先までご連絡ください。手続きに際しては必ず会則をご一読ください。

1. 入会申込書の記入について

入会申込書はすべてデータベースに登録しますので楷書ではっきり記入してください。

所属機関の名称は原則として、大学の場合には学部・学科まで、会社等の場合には部・課までを記入してください。

連絡先は会費請求書等の送付先になりますので、所属機関、自宅住所のうち、該当するものを選択してください。

準会員での入会の場合は、可能な限り正会員 1 名の推薦をお願いします。

推薦者がいる場合は、所定欄に推薦者名をご記入ください。

臨時会員の入会は、当該年度のみの登録となります。

例・第 40 回学術集会（リハビリテーション・看護部門）で発表し、Hip Joint 第 40 巻 Suppl. 誌に投稿の場合、当該年度（2013 年度：2013 年 9 月 1 日～2014 年 8 月 31 日）のみの登録となります。本会の会計年度は、9 月～8 月です。

記載された個人情報は本学会の運営業務のみに使用します。

2. 会費の送金方法について

入会申込書をご返送していただくから、1 ヶ月以内に会費請求書（払込用紙）を発行いたしますので、最寄りの郵便局よりお振り込みください。

3. 入会申込書

正会員・準会員・臨時会員 → Hp より pdf ダウンロード
賛助会員 → HP より pdf ダウンロード

4. 自動振込申込について

自動振込をご希望の方は、以下の用紙をダウンロードしてください。所要事項をご記入いただくとともに金融機関届出印を押印のうえ、下記申込先まで郵送してください。

* 入会初年度は、学会事務局よりお送りする年会費請求書（払込用紙）にて送金 手続きをお願いします。自動振込の取扱いは次年度からの適用となります。

* 届出印不達により、自動振込申請ができない場合がありますので、預金口座に使用している届出印をご確認ください。

自動振込用紙 → HP よりダウンロード

申込先：日本股関節学会 会員係

〒100-0003
東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル 9 階
（株）毎日学術フォーラム内
TEL：03-6267-4550 FAX：03-6267-4555
E-Mail：jhs@mynavi.jp

Japanese Hip Society 日本股関節学会ニュースレター

Hip 2016/9 第2号

編集後記

日本股関節学会ニュースレター創刊号を発刊して早くも1年が経過しました。本学会員のみならず多くの整形外科関連の皆様方から興味をもってニュースレターを手にとって頂いたというお話を伺い大変ありがたく思っております。第2号も昨年同様に厳しい夏がようやく終わりを告げ、机に向かって書物に集中できる初秋の発行となりました。本号では特別インタビューとして元大相撲力士である舞の海秀平さんのお話を掲載させていただきました。小柄ながら気迫あふれる多くの名勝負は私たちの記憶に鮮明に残っていますが、舞の海さんのような特段高いパフォーマンスを継続的に発揮するために股関節を専門とする医師がいかにアスリートに接するべきか示唆に富むお話が伺えました。

さて今年は8年ぶりに改訂された変形性股関節症診療ガイドラインに関して、その発刊のご苦勞を中島康晴先生に触れていただきました。最近若手医師と接すると「基本にこだわる」ということが忘れ去られていると感じることがしばしばあります。スタンドプレーに走らず、まず着実に基本事項を習得してシングルヒットを打つことに集中すれば、結果的には満塁ホームランという大きな飛躍の原動力になることは間違いないと思います。そのような観点からも、地味かもしれませんがこのガイドラインを隅々まで読み込むことは極めて重要な基本練習であると考えます。

またここ数年、本学会においてもトピックスとしてFAIが注目されており、これに対する診断あるいは治療の手段のひとつとしての股関節鏡に関して多くの演題発表や論文投稿がなされるようになりました。しかし股関節学の基本を習得せぬままにテクニックのみ走るにわか股関節外科医が出現している傾向に危惧を抱いているのは私だけではないと思います。このような背景から動き出した本学会が主導する股関節鏡技術認定制度の話も掲載させていただきました。

今後も股関節診療に携わる多くの方々から有用な情報をお伝えし、さらに会員の皆様からのご要望をタイムリーに反映できるようなニュースレターの作成に努めてまいりたいと思いますので忌憚のないご意見、ご希望をお寄せいただければ幸いです。

(担当理事 山本 謙吾)

日本股関節学会ニュースレター第2号 2016年9月号

発行元・お問い合わせ先

日本股関節学会事務局

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル9階
(株) 毎日学術フォーラム内
TEL : 03-6267-4550 FAX : 03-6267-4555
E-Mail : jhs@mynavi.jp